

A decorative blue wave graphic spanning the width of the page, with a gradient from dark blue to light blue.

# ニフクラ Red Hat Enterprise Linux AUS スタートガイド

J2UL-2766-04Z0(00)  
2023年9月

# 本書をお読みにする前に

本書は、ニフクラ上でRed Hat Enterprise Linux AUS (Advanced Mission Critical Update Support)(以降、RHEL AUS)を利用するために必要となる情報について説明します。



本書は、ニフクラの「Red Hat Enterprise Linux AUS」のサービスページ([https://pfs.nifcloud.com/service/rhel\\_aus.htm](https://pfs.nifcloud.com/service/rhel_aus.htm))より必ず最新版をダウンロードしてお読みください。

## 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

## 本書の構成

章	内容
1 サービス概要	RHEL AUSサポートサービスの概要について説明しています。
2 RHELサーバーの構築	ニフクラでのRHELサーバーの構築について説明しています。
3 RHELサーバーの変更・削除	ニフクラ上のRHELサーバーの変更・削除について説明しています。
付録A RHEL AUSイメージの設定内容	RHEL AUSイメージの設定内容について説明しています。

## 本書の表記

本文中では、製品名称を次のように表記しています。

ソフトウェア製品名称	本文中の表記	
Red Hat Enterprise Linux 8. <i>n</i> <sup>[注1]</sup>	RHEL8. <i>n</i> <sup>[注1]</sup>	RHEL
Red Hat Enterprise Linux 9. <i>n</i> <sup>[注1]</sup>	RHEL9. <i>n</i> <sup>[注1]</sup>	
Red Hat Satellite	Satellite	

[注1]: "*n*"には、マイナーリリースを示す数字が入ります。

## 本文中の記号

本文中では、次の記号を使用しています。

記号	意味
注意	使用上の注意点や、してはいけないことを説明しています。必ずお読みください。
参考	理解を助けるための補足情報などを説明しています。必要に応じてお読みください。
『 』	関連したマニュアルを示しています。
...	途中の記述が省略されていることを示しています。

任意のアルファベット、または数字の表記を次のように表記しています。

文字スタイル	意味
<i>A</i>	この文字列が表示されている箇所には、任意のアルファベットが表示されることを意味します。
<i>n</i>	この文字列が表示されている箇所には、0-9の数字が表示されることを意味します。

## コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

ユーザー可変(ユーザーの環境により異なる)の文字列

次のように、< >で括って表記します。

```
# e2label <デバイス名> <ラベル名>
```

追加／変更対象文字列

次のように、太字で表記します。

```
NETWORKING=yes  
HOSTNAME=<ホスト名>  
...  
VLAN=yes
```

説明を有する文字列

次のように、文字列の下に下線を引き、枠外に説明文を記述しています。

```
# mount LABEL=/backlabel /backup
```

下線部分は、ラベル名です。

## 出力例

本文中では、出力例を次のように表記しています。

ユーザー可変(ユーザーの環境により異なる)の文字列

次のように、斜体で表記します。

```
Jul 22 16:20:34 build smartd[3259]: Device: /dev/sdb, open() failed: No such device
```

## キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例:【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例:【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## 参考マニュアル

本文中で参照するマニュアルは、次のように表記します。

## 富士通が提供するマニュアル

富士通のSupportDesk ご契約者様向けサイト SupportDesk-Web(<https://eservice.fujitsu.com/supportdesk-web/>)で公開されています。これらのマニュアルの参照には、SupportDeskサービス管理者ID/パスワードが必要です。

マニュアル名称	概要	本書での表記
Red Hat Enterprise Linux <i>n</i> <sup>[注1]</sup> ソフトウェア説明書	RHEL <i>n</i> <sup>[注1]</sup> を利用するうえで必要な情報や参考になる情報を記載しています	『ソフトウェア説明書』

マニュアル名称	概要	本書での表記
Red Hat Enterprise Linux <i>n</i> <sup>[注1]</sup> 制限事項/注意事項	RHEL <i>n</i> <sup>[注1]</sup> を利用するときの制限事項および注意事項を記載しています。	『制限事項/注意事項』
Red Hat Enterprise Linux <i>n</i> <sup>[注1]</sup> Linuxユーザーズマニュアル	RHEL <i>n</i> <sup>[注1]</sup> をお使いになる方を対象に設計／導入／運用／保守に関する情報や参考となる考え方を提供しています。	『Linuxユーザーズマニュアル』

[注1]: "*n*"には、バージョンを示す数字が入ります。

## Red Hat 社から提供される公開マニュアル

Red Hat社のカスタマーポータル(<https://access.redhat.com/>)で、Red Hat製品のマニュアルが公開されています。

マニュアル名称	英語名称	概要	本書での表記
Red Hat Enterprise Linux 8 基本的なシステム設定の構成	Red Hat Enterprise Linux 8 Configuring basic system settings	基本的なシステムの設定について記載されています。	『基本的なシステム設定の構成』
Red Hat Enterprise Linux 9 基本的なシステム設定の構成	Red Hat Enterprise Linux 9 Configuring basic system settings	基本的なシステムの設定について記載されています。	『基本的なシステム設定の構成』

## ニフクラから提供される公開マニュアル

ニフクラの公式サイトでドキュメント(<https://pfs.nifcloud.com/doc/>)が公開されています。

マニュアル名称	概要	本書での表記
コントロールパネルヘルプ	ニフクラで提供するコントロールパネルの説明・操作について記載されています。	『コントロールパネルヘルプ』
ユーザーガイド	ニフクラ各機能の利用手順について記載されています。	『ユーザーガイド』

## 輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

## 商標

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, Shadowmanロゴ, JBossは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。

Linux®は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。

そのほか、本マニュアルに記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Copyright Fujitsu Limited 2022-2023

## 変更履歴

版数	変更日	変更箇所	修正概要
初版	2022年03月14日	全章	初版作成
2版	2022年08月02日	1.3.2	参考を修正
		2.2.1	手順1-cを修正
			手順2に注意を追加
		2.2.4	参考を修正
			“メモリーダンプ環境の設定”に注意を追加

版数	変更日	変更箇所	修正概要
		2.3.1	“カスタマイズイメージの作成時”の手順2を修正
3版	2023年04月21日	1.3.3	Satelliteサーバーの稼働状況、定期保守スケジュールの確認方法を変更
4版	2023年08月04日	1.2, 1.3.1, 1.3.2, 2.1, 2.2.2, 2.2.3, 2.2.4 付録A	RHEL9対応

# 目 次

第1章 サービス概要.....	1
1.1 RHEL AUSサポートサービス.....	1
1.2 RHEL AUSイメージ.....	2
1.3 Satelliteサーバー.....	2
1.3.1 接続仕様.....	2
1.3.2 提供リポジトリ.....	2
1.3.3 保守情報.....	5
第2章 RHELサーバーの構築.....	6
2.1 RHELサーバーの作成.....	6
2.2 RHELサーバーの設定.....	11
2.2.1 Satelliteサーバーへの登録.....	12
2.2.2 リポジトリの設定.....	13
2.2.2.1 RHEL8の手順.....	13
2.2.2.2 RHEL9の手順.....	15
2.2.3 修正適用.....	18
2.2.4 その他のRHELサーバー設定.....	18
2.3 カスタマイズイメージの利用.....	20
2.3.1 カスタマイズイメージ利用時の追加手順.....	20
第3章 RHELサーバーの変更・削除.....	21
3.1 RHELサーバーの設定変更.....	21
3.2 RHELサーバーの削除.....	21
付録A RHEL AUSイメージの設定内容.....	22

# 第1章 サービス概要

ここでは、本サービスの概要を説明します。

## 1.1 RHEL AUSサポートサービス

本サービスは、ニフクラ<sup>[注1]</sup>上でRHEL AUSを提供します。

[注1]以降の説明で、ニフクラと表記している場合、FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-Vも対象に含みます。

RHEL AUSは、特定のマイナーリリースを長期(最大6年間)にわたって利用することができる、安定運用・長期利用が求められるシステムに適したサブスクリプション付きのRHELサポートサービスです。通常、新規のセキュリティ・バグ修正はRHELの最新マイナーリリースに対してのみ提供されますが、RHEL AUSをご利用の場合は、マイナーリリースのアップデートをせずに新規修正の適用が可能のため、長期間にわたる安定稼働を実現できます。

ニフクラ上のRHEL AUSのサービス仕様については、ニフクラのサービスページ([https://pfs.nifcloud.com/service/rhel\\_aus.htm](https://pfs.nifcloud.com/service/rhel_aus.htm))を参照してください。

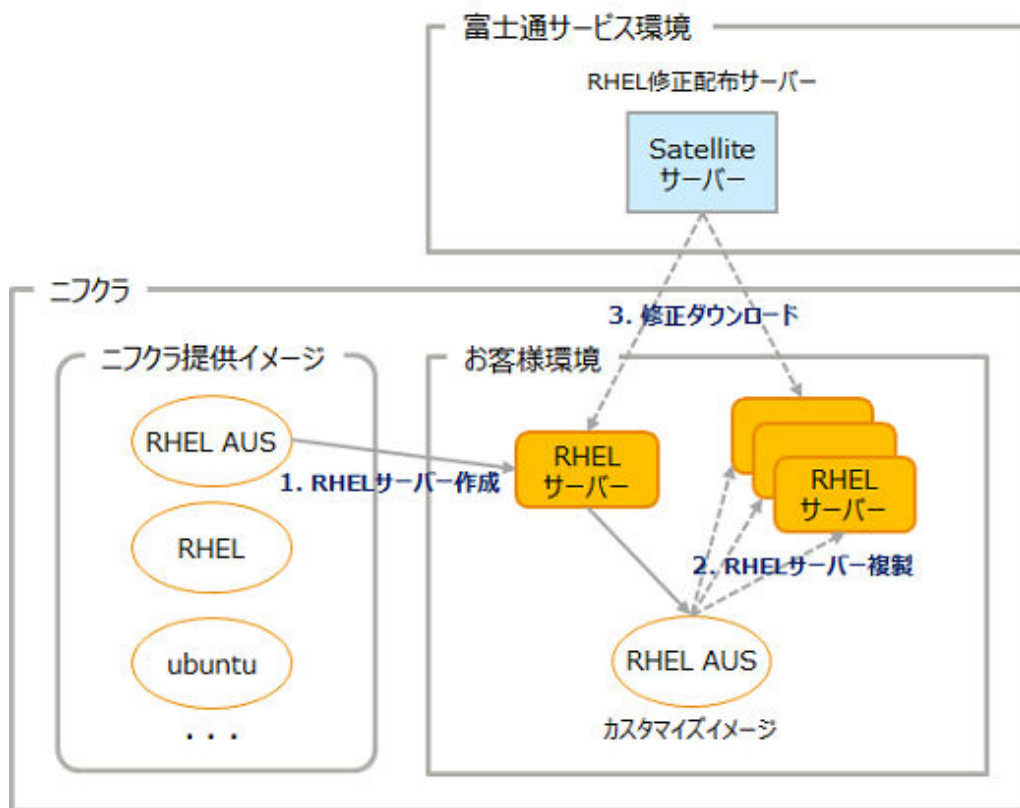
ニフクラ上で本サービスを利用するためには、サービスページでSupportDeskサービス管理者IDのお申し込みが必要となります。サービスページの「ご利用方法」の手順に従い、ご利用手続きをしてください。

以下に、ニフクラ上でのRHEL AUS利用手順の概要を説明します。

1. ニフクラのコントロールパネルから、RHEL AUSイメージを選択してRHELサーバーを作成・構築します。
2. 必要に応じて、構築したRHELサーバーからカスタマイズイメージを作成し、RHELサーバーを複製して利用します。
3. RHELサーバーからSatelliteサーバーに接続して、RHELの修正を適用します。

本サービスにおけるRHELサーバーの構築/運用の概念図を示します。

図1.1 RHEL AUSサポートサービス概念図



## 1.2 RHEL AUSイメージ

本サービスで使用するRHEL AUSイメージは、ニフクラ上でOSイメージとして提供されます。

- OSイメージ名:  
Red Hat Enterprise Linux 8.*n* AUS  
Red Hat Enterprise Linux 9.*n* AUS



- OSイメージ名に“AUS”がついていないRHELイメージ (例:Red Hat Enterprise Linux 8.4) では、RHEL AUSを利用することはできません。

本ドキュメントに記載している手順に従って、RHEL AUSイメージを利用してください。

RHEL AUSイメージの設定内容については、「[付録A RHEL AUSイメージの設定内容](#)」を参照してください。

## 1.3 Satelliteサーバー

Satelliteサーバーは、本サービスを利用するRHELサーバーに対してRHELの修正を提供するサーバーです。

本ドキュメントに記載している手順に従って、Satelliteサーバーを利用してください。

### 1.3.1 接続仕様

Satelliteサーバーは、RHELサーバーからインターネット経由で接続して利用します。

Satelliteサーバー接続に関する仕様は、次のとおりです。

表1.1 Satelliteサーバー接続に関する仕様

項目	説明
Satelliteサーバーへの接続ポート	443/TCP, 8443/TCP
本サービスに接続可能なコマンド	<ul style="list-style-type: none"><li>yumコマンドまたはdnfコマンド</li><li>subscription-managerコマンド</li></ul> 注: Webブラウザからの接続はできません

Satelliteサーバーに接続するために次の情報が必要です。これらの情報はニフクラ担当窓口より提供します。また、どちらもSatelliteサーバーを利用する上で重要な情報です。関係者以外には漏洩しないよう、取り扱いに注意してください。

- Satelliteサーバーのホスト名
- Satelliteサーバー上で定義される組織名
- Satelliteサーバーに登録するためのアクティベーションキー



- RHELサーバーからSatelliteサーバーおよびポートへ接続できるように、必要に応じてルーターなどの設定を実施してください。

### 1.3.2 提供リポジトリ

Satelliteサーバーでは次のRHEL AUSリポジトリを提供しています。



表1.2 RHEL8 AUS(Advanced Mission Critical Update Support)リポジトリ[注1]

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-rpms[注2]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (RPMs)
rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (Debug RPMs)
rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-rpms[注2]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (RPMs)
rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (Debug RPMs)

[注1]: RHEL8.4以降のAUSが対象です。

[注2]: RHEL8本体の修正を提供するベースリポジトリです。

表1.3 RHEL9 AUS(Advanced Mission Critical Update Support)リポジトリ[注3]

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-rpms[注4]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (RPMs)
rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (Debug RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-rpms[注4]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (Debug RPMs)

[注3]: RHEL9.2以降のAUSが対象です。

[注4]: RHEL9本体の修正を提供するベースリポジトリです。

また、SatelliteサーバーではRHEL AUSリポジトリだけでなく、次のRHEL標準およびRHEL EUSのリポジトリも提供しています。

表1.4 RHEL8 標準リポジトリ

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms[注5]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream(RPMs)
rhel-8-for-x86_64-appstream-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream (Debug RPMs)
rhel-8-for-x86_64-baseos-rpms[注5]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS (RPMs)
rhel-8-for-x86_64-baseos-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS (Debug RPMs)
rhel-8-for-x86_64-supplementary-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - Supplementary (RPMs)
codeready-builder-for-rhel-8-x86_64-rpms	Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 8 x86_64 (RPMs)

[注5]: RHEL8本体の修正を提供するベースリポジトリです。

表1.5 RHEL8 EUS(Extended Update Support)リポジトリ[注6]

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-8-for-x86_64-appstream-eus-rpms[注7]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Extended Update Support (RPMs)
rhel-8-for-x86_64-appstream-eus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Extended Update Support (Debug RPMs)
rhel-8-for-x86_64-baseos-eus-rpms [注7]	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Extended Update Support (RPMs)

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-8-for-x86_64-baseos-eus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Extended Update Support (Debug RPMs)
rhel-8-for-x86_64-supplementary-eus-rpms	Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - Supplementary - Extended Update Support (RPMs)
codeready-builder-for-rhel-8-x86_64-eus-rpms	Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 8 x86_64 - Extended Update Support (RPMs)

[注6]: RHEL8.4以降のEUSが対象です。

[注7]: RHEL8本体の修正を提供するベースリポジトリです。

表1.6 RHEL9 標準リポジトリ

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-9-for-x86_64-appstream-rpms[注8]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream(RPMs)
rhel-9-for-x86_64-appstream-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream (Debug RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-rpms[注8]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS (RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS (Debug RPMs)
rhel-9-for-x86_64-supplementary-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - Supplementary (RPMs)
codeready-builder-for-rhel-9-x86_64-rpms	Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 9 x86_64 (RPMs)

[注8]: RHEL9本体の修正を提供するベースリポジトリです。

表1.7 RHEL9 EUS(Extended Update Support)リポジトリ[注9]

リポジトリID	リポジトリ名
rhel-9-for-x86_64-appstream-eus-rpms[注10]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Extended Update Support (RPMs)
rhel-9-for-x86_64-appstream-eus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Extended Update Support (Debug RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-eus-rpms [注10]	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Extended Update Support (RPMs)
rhel-9-for-x86_64-baseos-eus-debug-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Extended Update Support (Debug RPMs)
rhel-9-for-x86_64-supplementary-eus-rpms	Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - Supplementary - Extended Update Support (RPMs)
codeready-builder-for-rhel-9-x86_64-eus-rpms	Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 9 x86_64 - Extended Update Support (RPMs)

[注9]: RHEL9.2以降のEUSが対象です。

[注10]: RHEL9本体の修正を提供するベースリポジトリです。



## 注意

- 通常、RHEL AUSではRHEL標準およびRHEL EUSのリポジトリは使用しませんが、次のリポジトリはRHEL AUSリポジトリには含まれていないため、これらのリポジトリを使用したい場合は、RHEL EUSのリポジトリのものを使用してください。リポジトリの使用方法は「2.2.2 リポジトリの設定」を参照してください。ただし、次のリポジトリに含まれるパッケージはRHEL AUSサポートサービスのサポート対象外となります。

### ー RHEL8リポジトリ

- Red Hat Enterprise Linux 8 for x86\_64 - Supplementary

- Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 8 x86\_64
- RHEL9リポジトリ
  - Red Hat Enterprise Linux 9 for x86\_64 - Supplementary
  - Red Hat CodeReady Linux Builder for RHEL 9 x86\_64

### 1.3.3 保守情報





Satelliteサーバーの障害発生時や定期保守など、Satelliteサーバーが利用できない場合があります。Satelliteサーバーの稼働状況や定期保守のスケジュールについては、以下の「富士通が提供する各種サービスの稼働状況を公開」サイト内にある「RHEL修正配布サーバー(Satellite)」の「パブリッククラウド契約者向け(AWS/Azure/FJcloud-V/ニフクラ)」ページを参照してください。

「富士通が提供する各種サービスの稼働状況を公開」サイト(<https://status.jp.fujitsu.com/>)

Satelliteサーバーの稼働状況と定期保守のスケジュールの確認方法について説明します。

- 稼働状況公開サイトにアクセスします。
- 「デジタルインフラ」をクリックします。
- 「運用保守サービス」にある「RHEL修正配布サーバー(Satellite)」をクリックします。
- 「パブリッククラウド契約者向け(AWS/Azure/FJcloud-V/ニフクラ)」の表示内容を確認します。状況アイコンの意味は次表「稼働状況の表示内容」に示します。
- 「パブリッククラウド契約者向け(AWS/Azure/FJcloud-V/ニフクラ)」をクリックします。
- 「現在の状況」タブをクリックします。
- 稼働状況の詳細と定期保守のスケジュールを確認します。
  - 障害発生時・復旧後などに稼働状況の詳細を確認する場合、該当するメッセージをクリックすることで、詳細が表示されます。
  - 定期保守のスケジュールを確認する場合は、「メンテナンススケジュール」をクリックすることで、定期保守のスケジュールが表示されます。

表1.8 稼働状況の表示内容

状況アイコン	状況アイコンが示す内容
 正常	正常稼働中
 一部障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部サービスの利用不可</li> <li>全サービスの利用不可、かつ、4時間以内にサービス復旧見込み</li> </ul>
 障害	全サービスが利用不可、かつ、サービス復旧時間が4時間以上見込まれる
 お知らせ	定期・臨時メンテナンスのスケジュール、メンテナンス開始・終了、障害発生時のお知らせ、など



#### 注意

- 定期・臨時メンテナンスなど、事前告知したメンテナンスによるサービス停止中は、正常アイコンが表示されます。

## 第2章 RHELサーバーの構築

ここでは、ニフクラ上でRHELサーバーを構築する手順について説明します。

### 構築の流れ

ニフクラ上でRHELサーバーを構築するまでの流れを説明します。

#### 2.1 RHELサーバーの作成



#### 2.2 RHELサーバーの設定



#### 2.3 カスタマイズイメージの利用

## 2.1 RHELサーバーの作成

ここでは、RHEL AUSイメージを使用してニフクラ上にRHELサーバーを作成する手順について説明します。



### 注意

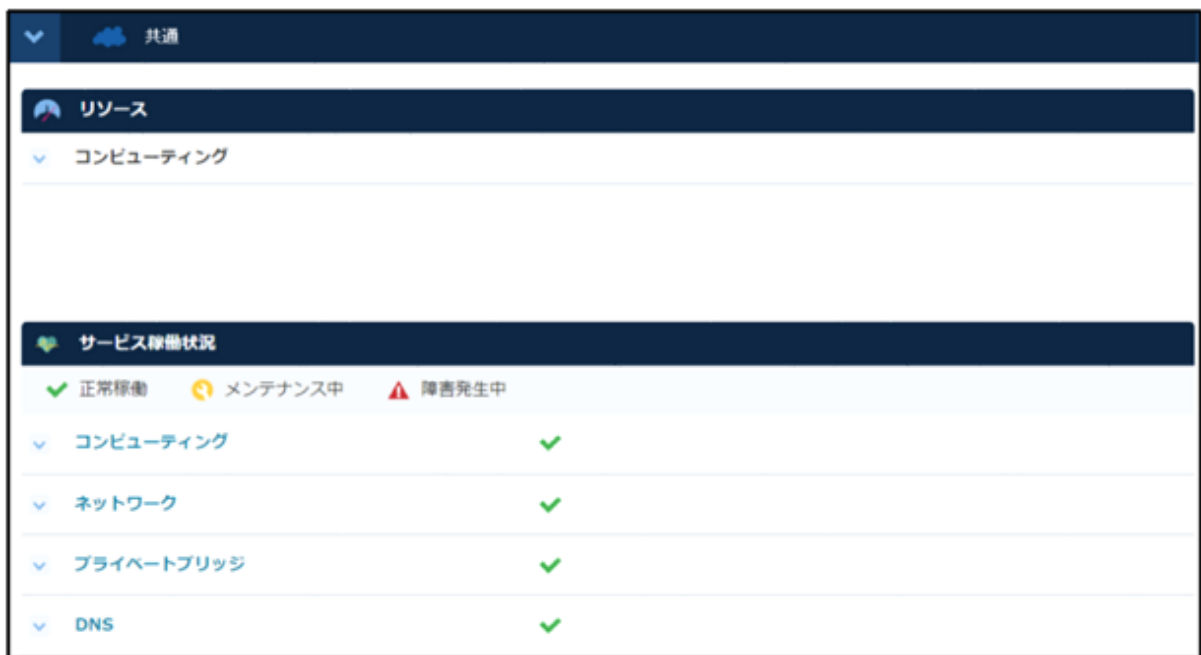
- RHELサーバー作成直後は、RHELサーバーにログインできるユーザー名はrootユーザーのみです。認証方式は公開鍵認証です。
- rootユーザーのパスワードは設定されていません。必要に応じてパスワードを設定してください。
- 富士通が提供するRHEL AUSイメージには、富士通Linuxサポートパッケージ(以降、FJ-LSPと表示します)を適用しています。

FJ-LSPの適用によりRHEL AUSイメージには、次の処理が行われています。

- ー 富士通がRHELサポートを提供する上で必要なパッケージのインストール
- ー Linux高信頼ツールのインストール
- ー OS設定の変更

詳細は『Linuxユーザーズマニュアル』の「FJ-LSPとは」を参照してください。

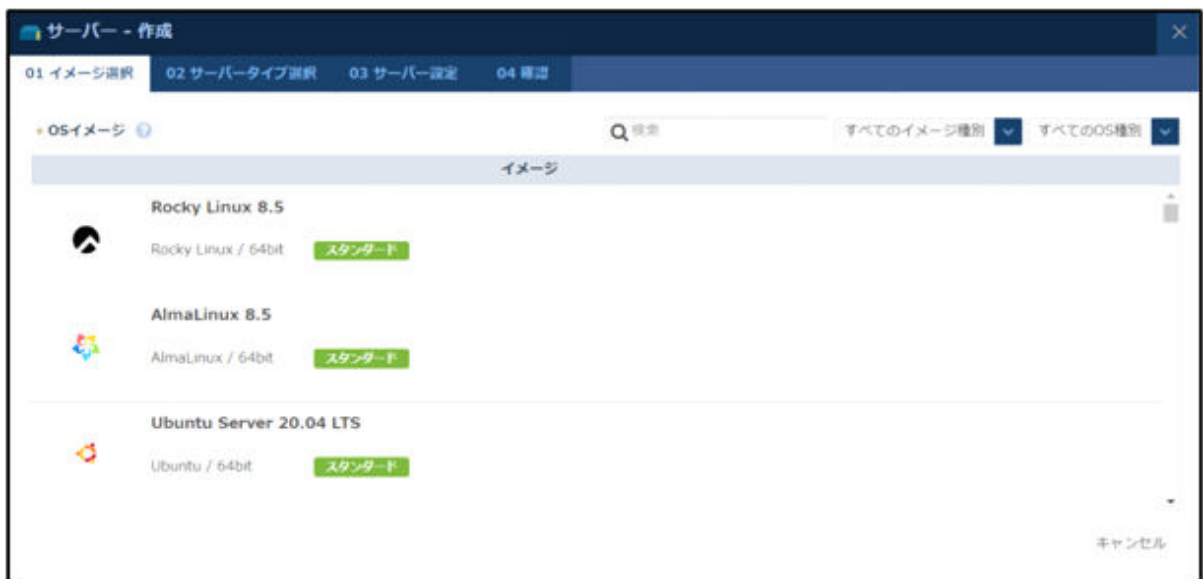
1. Webブラウザでニフクラのコントロールパネルにログインし、[コンピューティング]を選択します。



2. 左メニューから「サーバー」をクリックし、サーバー一覧を表示します。



3. サーバー一覧画面にある「サーバー作成」ボタンをクリックします。[サーバー作成]ダイアログボックスが表示されます。



4. [01 イメージ選択]タブで、OSイメージとして以下のいずれかを選択します。

- Red Hat Enterprise Linux 8.*n* AUS
- Red Hat Enterprise Linux 9.*n* AUS



5. [02 サーバータイプ選択]タブで、サーバータイプを選択します。

作成するサーバーのタイプを選択します。

ゾーン:

タイプ:

タイプ	vCPU	メモリ	月額	従量 (起動中)	従量 (停止中)	
c-medium4	2vCPU	4GB	¥8,000/月	¥14/時	¥4/時	選択
e-medium4	2vCPU	4GB	¥15,000/月	¥26/時	¥6/時	選択
f12-medium4	2vCPU	4GB	¥23,380/月	¥40/時	¥5/時	選択
c-medium8	2vCPU	8GB	¥14,000/月	¥25/時	¥5/時	選択
e-medium8	2vCPU	8GB	¥21,000/月	¥37/時	¥7/時	選択

戻る キャンセル

— ゾーン

RHELサーバーを作成するゾーンを指定します。

— タイプ

利用するサーバータイプを選択します。

6. [03 サーバー設定]タブで、サーバーの設定情報を入力します。

情報を入力後、[確認]ボタンを選択します。

サーバーの設定情報を入力します。

サーバー名:  (半角英数字1～15文字)

メモ:  (半角英数字1～40文字以内)

料金プラン:

SSHキー:

ファイアウォール:

ネットワーク

ネットワーク名	IPアドレス
グローバル	<input type="text" value="利用しない"/>
プライベート	<input type="text" value="fujitsuprivate (192.168) 指定しない"/>

スクリプト: ☒ 使用しない ☐ 使用する

戻る キャンセル 確認

— サーバー名

任意の名前を入力します。

— メモ

任意のメモを入力します。

ー 料金プラン

「月額」を選択します。



- RHEL AUSイメージでは料金プランに「従量」を使用することはできません。

ー SSHキー

RHELサーバーへのログインに使用するSSH キーを指定します。富士通が提供するRHEL AUSイメージの認証方式は公開鍵認証のため、SSHキーを選択してください。

ー ファイアウォール

RHELサーバーに適用するファイアウォールを設定します。ニフクラが提供するファイアウォール機能を利用する場合、作成済みのファイアウォールから選択します。「適用しない」を選択した場合、すべての通信が許可されるため、ファイアウォールの利用を推奨します。

ー ネットワーク

RHELサーバーを利用するシステムの構成によって異なります。お客様の接続要件に応じて設定してください。

- グローバル

「自動割り当て」、「付替IPアドレス」、「利用しない」から選択します。「利用しない」を選択すると、インターネットからのアクセスはできません。

- プライベート

「共通プライベート」と作成済みのプライベートLANから選択します。「共通プライベート」はニフクラをご利用しているお客様が共用で利用するネットワークになります。プライベートLAN のご利用を推奨します。

IPアドレスは、「共通プライベート」の場合は「自動割り当て」、「付替IPアドレス」から、作成済みのプライベートLANを利用する場合は、「自動割り当て」、「指定する」、「指定しない」から選択します。

ー スクリプト

サーバーが起動した際に実行するスクリプトを設定できます。「使用しない」、「使用する」を選択します。スクリプトの利用設定方法については、ニフクラのマニュアル『ユーザーガイド』を参照してください。



7. [04 確認]タブで入力情報を確認し、右下の「作成する」を選択します。

サーバー - 作成

01 イメージ選択 02 サーバタイプ選択 03 サーバ設定 04 確認

以下の内容でサーバーを作成します。

● イメージ選択 OSイメージ Red Hat Enterprise Linux 8.4 AUS

● サーバタイプ選択 ゾーン east-11  
サーバタイプ e-medium4

● サーバ設定 サーバ名 RHEL84AUS2  
メモ Red Hat Enterprise Linux 8.4 AUS  
料金プラン 月額  
SSHキー fujitsussh  
ファイアウォール fujitsufr

ネットワーク名	IPアドレス
グローバル	利用しない
プライベート fujitsuprivate	既定しない

スクリプト 使用しない

項目名	単価	数量	小計 (税別)
e-medium4 (ベーシックモデル 2vCPU / 4GB)	1,100 円/月	1台	1,100 円/月
グローバルIPアドレス (利用しない)	0 円/月	1IP	0 円/月

※本ページに記載の料金はすべて税別表示価格です。  
詳しくは、[弊社商品の価格表示について](#)をご覧ください。

① 料金プランが「月額」のため、サーバー起動日時などに問わず、ご利用料金は月額料金となります。日割計算はいたしません。

② ファイアウォール機能と他の通信設定 (iptables、Windows FW等) を併用する場合、双方の設定で矛盾が起きないようにご注意ください。

8. サーバ一覧画面が表示されます。RHELサーバーの作成が完了するとステータスは「オンライン」になります。表示が反映されるまで時間がかかる場合があります。その際は「更新」を選択してください。

コンピューティング

サーバー作成 VMインポート 更新

選択したサーバーの操作

サーバー	ステータス	グローバル	プライベート	タイプ
RHEL84AUS1	オンライン	192.168.1.10		e-medium4
RHEL84AUS2	オンライン	192.168.1.11		e-medium4

## 2.2 RHELサーバーの設定

ここでは、RHELサーバーの設定について説明します。

以降の手順では、rootユーザーでのコマンドの実行例を示します。

## 2.2.1 Satelliteサーバーへの登録

RHELサーバーを作成した後、RHELサーバーへの修正適用のため、Satelliteサーバーへの登録をします。

Satelliteサーバーへの登録手順は、次のとおりです。

1. Satelliteサーバーに登録するRHELサーバーの識別子を設定します。
  - a. 以下のコマンドを実行してUUIDを生成します。生成したUUIDを書き留めます。

```
# uuidgen
```

例:

```
# uuidgen
XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX
```

- b. Satelliteサーバーに登録するためのアクティベーションキーの末尾8桁の値を書き留めます。  
アクティベーションキーが“fjsdk-xxxx-xxxx-xxx-a1b2c3d4”の場合、“a1b2c3d4”の部分を書き留めます。
  - c. /etc/rhsm/facts/katello.factsファイルの<RHELサーバーの識別子>の部分にRHELサーバーの識別子を設定します。

```
{"network.hostname-override": "<RHELサーバーの識別子>"}
```

<RHELサーバーの識別子>には以下の形式で設定してください。

```
<UUID>-<アクティベーションキーの末尾8桁の値>
```

<UUID>には手順a.で書き留めたUUIDを設定します。

<アクティベーションキーの末尾8桁の値>には手順b.で書き留めたアクティベーションキーの末尾8桁の値を設定します。

例: <UUID>が“XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX”、アクティベーションキーの末尾8桁の値が“a1b2c3d4”の場合

```
{"network.hostname-override": "XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX-a1b2c3d4"}
```

2. 次のコマンドを実行し、RHELサーバーをSatelliteサーバーに登録します。

```
# subscription-manager register --org=<Satelliteサーバー上で定義される組織名> ¥
--activationkey=<Satelliteサーバーに登録するためのアクティベーションキー> ¥
--serverurl=https://<Satelliteサーバーのホスト名>:8443/rhsm ¥
--baseurl=https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos
```

次のメッセージが出力されたことを確認してください。

```
The system has been registered with ID: XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX
```



- 次のようなエラーメッセージが出力された場合は、Satelliteサーバーに登録するRHELサーバーの識別子の設定漏れや設定値の誤りの可能性があります。手順1.にある/etc/rhsm/facts/katello.factsファイルを参照して、RHELサーバーの識別子が正しい形式で設定されているかご確認ください。正しい形式で設定されていない場合は、手順1.を実施後、再度手順2.を実施してください。

例1:

```
Name can't be blank, Name hostname can contain only lowercase letters, numbers, dashes and dots according to RFC921, RFC952 and RFC1123
```

例2:

Name hostname can contain only lowercase letters, numbers, dashes and dots according to RFC921, RFC952 and RFC1123

## 2.2.2 リポジトリの設定

RHELサーバー上で利用するリポジトリを有効化します。

なお、RHELバージョンごとに手順が異なります。

### 2.2.2.1 RHEL8の手順

#### リポジトリ設定の初期化

1. 最初にすべてのリポジトリを無効化します。

```
# subscription-manager repos --disable="*"
```

2. リポジトリが無効化されていることを確認します。

```
# yum repoinfo
Updating Subscription Management repositories.
Total packages: 0
```

すべてのリポジトリが無効化されている場合、Total packages: 0 と表示されます。

#### リポジトリの有効化

RHEL8 AUSのBaseOSリポジトリ(rhel-8-for-x86\_64-baseos-aus-rpms)とAppStreamリポジトリ(rhel-8-for-x86\_64-appstream-aus-rpms)を有効化します。また、これらのベースリポジトリに対応するデバッグリポジトリも有効化します。有効化の手順は次のとおりです。

1. リポジトリを有効にするコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-rpms
# subscription-manager repos --enable=rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-rpms
# subscription-manager repos --enable=rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
# subscription-manager repos --enable=rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
```

2. AUSのRHELバージョンを設定します。

例: RHEL8.4を使用する場合

```
# subscription-manager release --set=8.4
```



#### 参考

- ・ ベースリポジトリ以外のリポジトリを使用する場合、RHEL8 AUSリポジトリにはベースリポジトリ以外が含まれていないため、RHEL8 EUSリポジトリに含まれるリポジトリを有効化します。次のコマンドを実行して対象リポジトリを有効化します。

例: codeready-builder-for-rhel-8-x86\_64-eus-rpmsを有効にする場合

```
# subscription-manager repos --enable=codeready-builder-for-rhel-8-x86_64-eus-rpms
```

#### リポジトリの確認

1. 有効化されているリポジトリの確認

次のコマンドを実行して、有効になっているリポジトリのリストを表示します。

```
# subscription-manager repos --list-enabled
+-----+
+ Available Repositories in /etc/yum.repos.d/redhat.repo +
+-----+
```

```

Repo ID:   rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (Debug RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/baseos/debug
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update Support (RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/baseos/os
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (Debug RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/appstream/debug
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream - Advanced Update Support (RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/appstream/os
Enabled:   1

```

有効化したすべてのリポジトリの情報が表示されます (Repo IDには各リポジトリのIDが表示されます)。

2. RHELバージョンが設定されていることを確認します。

```

# subscription-manager release
Release: 8.4

```

上記の場合は、RHEL8.4が設定されています。

3. リポジトリデータのダウンロードの確認

- a. キャッシュをクリアします。

```
# yum clean all
```

- b. 次のコマンドを実行し、有効になっているリポジトリのデータが正しくダウンロードできることを確認します。

```

# yum repoinfo
Updating Subscription Management repositories.
Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS 60 MB/s | 41 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS 43 MB/s | 19 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream 56 MB/s | 36 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream 46 MB/s | 34 MB 00:00
Last metadata expiration check: 0:00:04 ago on Mon 28 Feb 2022 08:41:15 AM UTC.
Repo-id      : rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream -
              : Advanced Update Support (Debug RPMs)
Repo-revision : 1645731761
Repo-updated  : Thu 24 Feb 2022 07:44:34 PM UTC
Repo-pkgs    : 16,630
Repo-available-pkgs: 15,093
Repo-size    : 135 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/appstream/debug
Repo-expire   : 1 second(s) (last: Mon 28 Feb 2022 08:41:06 AM UTC)
Repo-filename : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id      : rhel-8-for-x86_64-appstream-aus-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - AppStream -
              : Advanced Update Support (RPMs)
Repo-revision : 1645731956
Repo-updated  : Thu 24 Feb 2022 07:48:04 PM UTC
Repo-pkgs    : 19,759
Repo-available-pkgs: 17,462
Repo-size    : 51 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/appstream/os

```

```

Repo-expire      : 1 second(s) (last: Mon 28 Feb 2022 08:41:15 AM UTC)
Repo-filename    : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id          : rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
Repo-name        : Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced
                  : Update Support (Debug RPMs)
Repo-revision    : 1645730673
Repo-updated     : Thu 24 Feb 2022 07:27:11 PM UTC
Repo-pkgs        : 8,642
Repo-available-pkgs: 8,631
Repo-size        : 51 G
Repo-baseurl     : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/baseos/debug
Repo-expire      : 1 second(s) (last: Mon 28 Feb 2022 08:41:02 AM UTC)
Repo-filename    : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id          : rhel-8-for-x86_64-baseos-aus-rpms
Repo-name        : Red Hat Enterprise Linux 8 for x86_64 - BaseOS - Advanced
                  : Update Support (RPMs)
Repo-revision    : 1645730838
Repo-updated     : Thu 24 Feb 2022 07:32:39 PM UTC
Repo-pkgs        : 8,484
Repo-available-pkgs: 8,481
Repo-size        : 14 G
Repo-baseurl     : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel8/8.4/x86_64/baseos/os
Repo-expire      : 1 second(s) (last: Mon 28 Feb 2022 08:40:55 AM UTC)
Repo-filename    : /etc/yum.repos.d/redhat.repo
Total packages: 53,515

```

エラーが出力されていないことを確認します。



## 参考

- 通常、RHEL8 AUSではRHEL8標準およびRHEL8 EUSのリポジトリは使用しませんが、お客様の要件によっては、RHEL8標準またはRHEL8 EUSのリポジトリも使用できます。RHEL8標準またはRHEL8 EUSのリポジトリを設定する場合は、上記の手順で、RHEL8 AUSリポジトリをRHEL8標準またはRHEL8 EUSのリポジトリに置き換えて実施してください。なお、RHEL8標準リポジトリの場合、RHELバージョンの設定は不要です。

## 2.2.2.2 RHEL9の手順

### リポジトリ設定の初期化

- 最初にすべてのリポジトリを無効化します。

```
# subscription-manager repos --disable="*"
```

- リポジトリが無効化されていることを確認します。

```
# dnf repoinfo
Updating Subscription Management repositories.
Total packages: 0
```

すべてのリポジトリが無効化されている場合、Total packages: 0 と表示されます。

### リポジトリの有効化

RHEL9 AUSのBaseOSリポジトリ(rhel-9-for-x86\_64-baseos-aus-rpms)とAppStreamリポジトリ(rhel-9-for-x86\_64-appstream-aus-rpms)を有効化します。また、これらのベースリポジトリに対応するデバッグリポジトリも有効化します。有効化の手順は次のとおりです。

- リポジトリを有効にするコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-rpms
# subscription-manager repos --enable=rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-rpms
```

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
# subscription-manager repos --enable=rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
```

## 2. AUSのRHELバージョンを設定します。

例: RHEL9.2を使用する場合

```
# subscription-manager release --set=9.2
```

## 参考

- ベースリポジトリ以外のリポジトリを使用する場合、RHEL9 AUSリポジトリにはベースリポジトリ以外が含まれていないため、RHEL9 EUSリポジトリに含まれるリポジトリを有効化します。次のコマンドを実行して対象リポジトリを有効化します。

例: codeready-builder-for-rhel-9-x86\_64-eus-rpmsを有効にする場合

```
# subscription-manager repos --enable=codeready-builder-for-rhel-9-x86_64-eus-rpms
```

## リポジトリの確認

### 1. 有効化されているリポジトリの確認

次のコマンドを実行して、有効になっているリポジトリのリストを表示します。

```
# subscription-manager repos --list-enabled
+-----+
+ Available Repositories in /etc/yum.repos.d/redhat.repo +
+-----+
Repo ID:   rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update
           Support (RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/baseos/os
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Advanced Update
           Support (RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/appstream/os
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream - Advanced Update
           Support (Debug RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/appstream/debug
Enabled:   1

Repo ID:   rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
Repo Name: Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced Update
           Support (Debug RPMs)
Repo URL:  https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/baseos/debug
Enabled:   1
```

有効化したすべてのリポジトリの情報が表示されます (Repo IDには各リポジトリのIDが表示されます)。

### 2. RHELバージョンが設定されていることを確認します。

```
# subscription-manager release
Release: 9.2
```

上記の場合は、RHEL9.2が設定されています。

### 3. リポジトリデータのダウンロードの確認

- a. キャッシュをクリアします。

```
# dnf clean all
```

- b. 次のコマンドを実行し、有効になっているリポジトリのデータが正しくダウンロードできることを確認します。

```
# dnf repoinfo
Updating Subscription Management repositories.
Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream 48 MB/s | 27 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream 51 MB/s | 23 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS 19 MB/s | 13 MB 00:00
Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS 15 MB/s | 8.3 MB 00:00
Last metadata expiration check: 0:00:03 ago on Wed 12 Jul 2023 04:52:20 AM UTC.
Repo-id      : rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-debug-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream -
              : Advanced Update Support (Debug RPMs)
Repo-revision : 1688975862
Repo-updated  : Mon 10 Jul 2023 07:57:42 AM UTC
Repo-pkgs    : 11,252
Repo-available-pkgs: 11,125
Repo-size    : 91 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/appstream/debug
Repo-expire   : 1 second(s) (last: Wed 12 Jul 2023 04:52:02 AM UTC)
Repo-filename : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id      : rhel-9-for-x86_64-appstream-aus-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - AppStream -
              : Advanced Update Support (RPMs)
Repo-revision : 1688975868
Repo-updated  : Mon 10 Jul 2023 07:57:48 AM UTC
Repo-pkgs    : 11,421
Repo-available-pkgs: 11,204
Repo-size    : 33 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/appstream/os
Repo-expire   : 1 second(s) (last: Wed 12 Jul 2023 04:52:07 AM UTC)
Repo-filename : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id      : rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-debug-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced
              : Update Support (Debug RPMs)
Repo-revision : 1688975744
Repo-updated  : Mon 10 Jul 2023 07:55:44 AM UTC
Repo-pkgs    : 4,582
Repo-available-pkgs: 4,582
Repo-size    : 20 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/baseos/debug
Repo-expire   : 1 second(s) (last: Wed 12 Jul 2023 04:52:20 AM UTC)
Repo-filename : /etc/yum.repos.d/redhat.repo

Repo-id      : rhel-9-for-x86_64-baseos-aus-rpms
Repo-name    : Red Hat Enterprise Linux 9 for x86_64 - BaseOS - Advanced
              : Update Support (RPMs)
Repo-revision : 1688975775
Repo-updated  : Mon 10 Jul 2023 07:56:15 AM UTC
Repo-pkgs    : 3,758
Repo-available-pkgs: 3,758
Repo-size    : 5.6 G
Repo-baseurl  : https://<Satelliteサーバーのホスト名>/pulp/repos/.../aus/rhel9/9.2/x86_64/baseos/os
Repo-expire   : 1 second(s) (last: Wed 12 Jul 2023 04:52:16 AM UTC)
Repo-filename : /etc/yum.repos.d/redhat.repo
Total packages: 31,013
```

エラーが出力されていないことを確認します。



## 参考

- ・ 通常、RHEL9 AUSではRHEL9標準およびRHEL9 EUSのリポジトリは使用しませんが、お客様の要件によっては、RHEL9標準またはRHEL9 EUSのリポジトリも使用できます。RHEL9標準またはRHEL9 EUSのリポジトリを設定する場合は、上記の手順で、RHEL9AUSリポジトリをRHEL9標準またはRHEL9 EUSのリポジトリに置き換えて実施してください。なお、RHEL9標準リポジトリの場合、RHELバージョンの設定は不要です。

## 2.2.3 修正適用

RHELサーバー上で、yumコマンドまたはdnfコマンドを使用してRHELの修正を適用します。

yumコマンドまたはdnfコマンドの詳細は、Red Hat 社から提供される公開マニュアルとyumコマンドまたはdnfコマンドのmanページを確認してください。

## 2.2.4 その他のRHELサーバー設定

ここでは、ニフクラで動作するのに必要な設定について説明します。

### RHELサーバーの設定の種類

RHELサーバーの設定には次のものがあります。

- ・ メモリーダンプ環境の設定
- ・ システム動作状況収集の設定
- ・ ログローテーションの設定
- ・ システムロケールの日本語化設定



## 注意

- ・ 環境設定はroot権限で実行してください。
- ・ 富士通がサポートするシステム要件を満たす環境構築のために、次の環境設定は必ず実施してください。
  - ー メモリーダンプ環境の設定



## 参考

- ・ 上記以外の環境設定については、『Linuxユーザーズマニュアル』およびRed Hat社が公開する次のRHELバージョンに対応するマニュアルも参照して、必要に応じて設定してください。
  - ー RHEL8『基本的なシステム設定の構成』
  - ー RHEL9『基本的なシステム設定の構成』

### メモリーダンプ環境の設定

RHELサーバーで発生するトラブルの調査に備えて、メモリーダンプ環境を設定します。

メモリーダンプ機能を使用するには、メモリーダンプを採取する領域の構築およびkdump機能の設定をします。設定については、『Linuxユーザーズマニュアル』の「メモリーダンプ機能」を参照してください。

「メモリーダンプ機能」の「メモリーダンプ環境構築の流れ」および「メモリーダンプ採取の流れ」では「PRIMERGYシリーズの場合」の手順を使用してください。





## 注意

- ニフクラではNMI (Non-maskable Interrupt) をサーバーに送付する機能を提供していないため、この機能によるメモリーダンプ採取ができません。ニフクラのマニュアル『ユーザーガイド』にある以下の「クラッシュダンプの取得方法について」を参照し採取してください。RHELサーバーがハングアップした場合は、RHELサーバーを再起動してください。

コンソール接続する:Linux系OSの場合

[https://pfs.nifcloud.com/guide/cp/login/console\\_linux.htm](https://pfs.nifcloud.com/guide/cp/login/console_linux.htm)

クラッシュダンプの取得方法について

## システム動作状況収集の設定

RHELサーバーの動作状況を収集する設定をします。設定については、『Linuxユーザーズマニュアル』の「システム動作状況収集の設定」を参照してください。

## ログローテーションの設定

ログファイルの運用に欠かせないログローテーションを設定します。

ログローテーションの設定については『Linuxユーザーズマニュアル』の「ログローテーションの設定」を参照してください。

## システムロケールの日本語化設定

富士通が提供するRHEL AUSイメージのシステムロケールは英語となります。次の手順により日本語にできます。なお、本設定はRHELサーバーを再起動することで反映されます。

1. タイムゾーンを“Asia/Tokyo”に変更します。

```
# timedatectl set-timezone Asia/Tokyo
```

2. 言語を“ja\_JP.UTF-8”に変更します。

```
# localectl set-locale LANG=ja_JP.UTF-8
```

3. キーボードを下記のように変更します。

RHEL8の場合

```
# localectl set-keymap jp106
```

RHEL9の場合

```
# localectl set-keymap jp
```

4. 正しく設定されたかを確認します。

例:タイムゾーン

```
# timedatectl status
      Local time: Fri 2020-11-06 18:46:06 JST
      Universal time: Fri 2020-11-06 09:46:06 UTC
      RTC time: Fri 2020-11-06 09:46:05
      Time zone: Asia/Tokyo (JST, +0900)
System clock synchronized: yes
      NTP service: active
      RTC in local TZ: no
```

例:言語/キーボード

RHEL8の場合

```
# localectl status
      System Locale: LANG=ja_JP.UTF-8
```

```
VC Keymap: jp106
X11 Layout: jp
X11 Model: jp106
X11 Options: terminate:ctrl_alt_bksp
```

RHEL9の場合

```
# localectl status
System Locale: LANG=ja_JP.UTF-8
VC Keymap: jp
X11 Layout: us
```

5. RHELサーバーを再起動します。

```
# systemctl reboot
```

## 2.3 カスタマイズイメージの利用

構築したRHELサーバーからカスタマイズイメージを作成して、カスタマイズイメージから新しいRHELサーバーも作成できます。カスタマイズイメージの作成や利用手順については、ニフクラのドキュメントを参照してください。

### 2.3.1 カスタマイズイメージ利用時の追加手順

ここでは、カスタマイズイメージを作成し利用する際に追加で必要となる作業を説明します。

#### カスタマイズイメージの作成時

カスタマイズイメージを作成する前に、RHELサーバー上でSatelliteサーバーからの登録を解除してください。

Satelliteサーバーからの登録解除の手順は、次のとおりです。

1. RHELサーバーの登録を解除するには、次のコマンドを実行してください。

```
# subscription-manager unregister
```

正常に登録が解除された場合、次のメッセージが出力されます。

```
System has been unregistered.
```

2. /etc/rhsm/facts/katello.factsファイルの<RHELサーバーの識別子>の部分に“server\_id”を設定します。ダブルクォーテーション(")は削除しないようご注意ください。

```
{"network.hostname-override": "<RHELサーバーの識別子>"}
```

例:

```
{"network.hostname-override": "server_id"}
```

#### カスタマイズイメージからのRHELサーバー作成時

カスタマイズイメージを使って作成した各RHELサーバー上で、Satelliteサーバーへの登録をしてください。

Satelliteサーバーへの登録手順については、「[2.2.1 Satelliteサーバーへの登録](#)」を参照してください。

RHELサーバー上でのリポジトリの設定手順については、「[2.2.2 リポジトリの設定](#)」を参照してください。

## 第3章 RHELサーバーの変更・削除

ここでは、ニフクラ上でRHELサーバーを変更・削除する場合の作業について説明します。

### 3.1 RHELサーバーの設定変更

RHELサーバー上でリポジトリの設定を変更する場合は、「[2.2.2 リポジトリの設定](#)」を参照してください。

### 3.2 RHELサーバーの削除

ニフクラ上からRHELサーバーを削除する場合、RHELサーバーを削除する前にRHELサーバー上でSatelliteサーバーからの登録を解除してください。

RHELサーバーの登録を解除するには、次のコマンドを実行してください。

```
# subscription-manager unregister
```

正常に登録が解除された場合、次のメッセージが出力されます。

```
System has been unregistered.
```

## 付録A RHEL AUSイメージの設定内容

ここでは、本サービスで使用するRHEL AUSイメージの設定内容について説明します。

RHEL AUSイメージに対して以下の設定をしています。

表A.1 RHEL8 AUSイメージの設定内容(RHEL8.4、RHEL8.6)

項目	設定内容
パッケージ	<p>@^minimal-environment (最小限のインストール)</p> <p>glibc-langpack-ja</p> <p>unbound</p> <p>富士通でサポートする上で必要なパッケージ<sup>[注1]</sup></p> <p>@python27:2.7/common</p> <p>avahi-libs.x86_64</p> <p>bc.x86_64</p> <p>crash.x86_64</p> <p>ed.x86_64</p> <p>gdb.x86_64</p> <p>ipmitool.x86_64</p> <p>libuv.x86_64</p> <p>ltrace.x86_64</p> <p>lvm2.x86_64</p> <p>mdadm.x86_64</p> <p>nspr.x86_64</p> <p>nss.x86_64</p> <p>nvme-cli.x86_64</p> <p>pcp.x86_64</p> <p>python3-lxml.x86_64</p> <p>sos.noarch</p> <p>strace.x86_64</p> <p>sysstat.x86_64</p> <p>systemtap.x86_64</p> <p>tcpdump.x86_64</p> <p>trace-cmd.x86_64</p>
ディスクサイズ	30GB
パーティション構成	/: 29GB, /boot: 1GB
初期ユーザー	root
ロケール	en_US.UTF-8を指定
タイムゾーン	Etc/UTCを指定
キーボード	英語キーボード
ファイアウォール	ファイアウォールを有効

項目	設定内容
SELinux	Enforcingモードに設定
管理	open-vm-toolsをインストール
	OS初期化スクリプト(nifcloud_init)をインストール
サポート	富士通Linuxサポートパッケージを適用
	システム情報採取ツールをインストール
	ダンプ支援ツールをインストール

[注1]:各パッケージが依存するパッケージもインストールされています。

表A.2 RHEL9 AUSイメージの設定内容(RHEL9.2)

項目	設定内容
パッケージ	<p>@core</p> <p>chrony</p> <p>glibc-all-langpacks</p> <p>langpacks-en</p> <p>lvm2</p> <p>open-vm-tools</p> <p>podman</p> <p>unbound</p> <p>富士通でサポートする上で必要なパッケージ<sup>[注2]</sup></p> <p>bc.x86_64</p> <p>binutils.x86_64</p> <p>crash.x86_64</p> <p>ed.x86_64</p> <p>gdb.x86_64</p> <p>info.x86_64</p> <p>ipmitool.x86_64</p> <p>libtracecmd.x86_64</p> <p>libtraceevent.x86_64</p> <p>libtracefs.x86_64</p> <p>lsof.x86_64</p> <p>ltrace.x86_64</p> <p>mdadm.x86_64</p> <p>nvme-cli.x86_64</p> <p>pcp.x86_64</p> <p>sos.noarch</p> <p>strace.x86_64</p> <p>sysstat.x86_64</p> <p>systemtap.x86_64</p>

項目	設定内容
	tcpdump.x86_64 trace-cmd.x86_64
ディスクサイズ	30GB
パーティション構成	/:29.3GB、/boot:500MB、/boot/efi:200MB
初期ユーザー	root
ロケール	en_US.UTF-8を指定
タイムゾーン	Etc/UTCを指定
キーボード	英語キーボード
ファイアウォール	ファイアウォールを有効
SELinux	Enforcingモードに設定
管理	open-vm-toolsをインストール
	OS初期化スクリプト(nifcloud_init)をインストール
サポート	富士通Linuxサポートパッケージを適用
	システム情報採取ツールをインストール
	ダンプ支援ツールをインストール

[注2]:各パッケージが依存するパッケージもインストールされています。